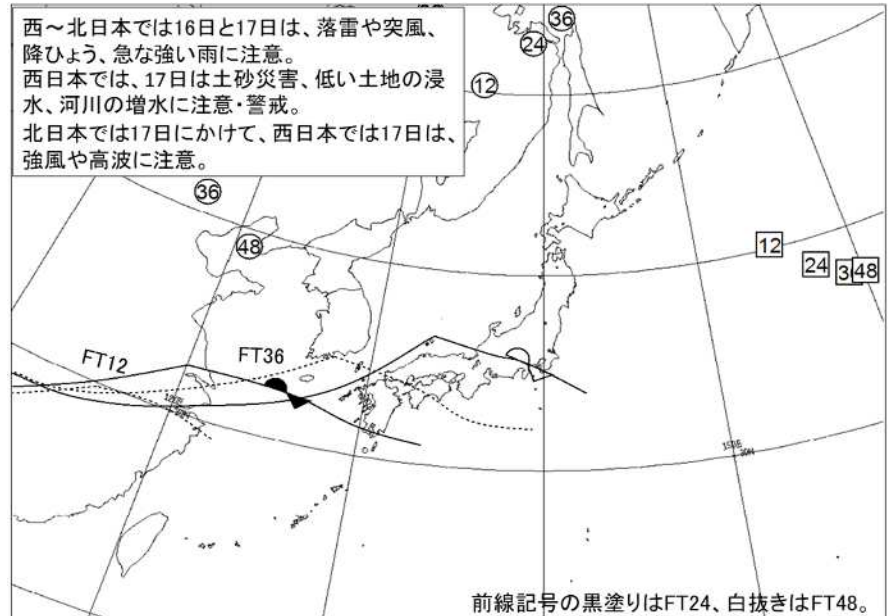


1. 実況上の着目点

- ① 日本の東の高気圧が日本付近を緩やかに覆っている。
- ② 500hPa 5640～5760m付近で-15℃以下の寒気を伴うトラフが日本海を東進しており、衛星水蒸気画像ではトラフに対応した暗域が明瞭。地上低気圧がアムール川下流を北東進。
- ③ 500hPa 5820m付近の正渦度移流に対応して、華中に前線がのびている。
- ④ 下層暖湿気の流入している南大東島近海では雷を検知。
- ⑤ ①の高気圧と②の低気圧との間で気圧の傾きが大きく、やや強い風の吹いている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は、17日にかけて日本の東から日本のはるか東へ移動する。また1項②の低気圧が、16日にかけてオホーツク海へ進む。これらの高気圧と低気圧との間で気圧の傾きが大きく、やや強い風や強い風が吹く所がある。北日本では17日にかけて、強風や高波に注意。
- ② 1項②のトラフは16日に北日本を通過し、上空の寒気や2項①の高気圧後面の下層暖湿気の流入、日中の昇温の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。北日本では16日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 1項③の前線は、16日朝には四国の南へのび、17日夜には西～北日本を通過して、日本の東へのびる。500hPa 5760m付近のトラフに対応して、前線上のシンクが16日夜には朝鮮半島の南へ、17日夜には北日本へ進む。前線に向かって流れ込む下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。また、前線の周辺では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風の吹く所がある。西～北日本では16日と17日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。西日本では17日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。16～17日の前線の位置や強雨域は不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：北海道3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。